

外国人に医療システム

NPO法人 エスニコ（札幌市）

NPO法人エスニコ主催（芦田科子代表）の「外国人医療を考えるフォーラム」が、2010年9月18日に札幌市の道民活動センター「かでる2・7」で行われた。

こうしたフォーラムを、エスニコが主催したのは今回で4回目。5年ぶりの開催である。1回目はエスニコが誕生した2001年、2回目は2002年、3回目は2005年に行い医療通訳をテーマに2日間かけて実施している。今回は、全国的な外国人医療の現状をもとに、北海道においても今後の関わりを考えるといった趣旨であった。

基調講演は「外国人医療サポートの現状と課題」について。講師は、外国人医療に関して様々な活動を実践している沢田貴志医師。神奈川県港町診療所所長として在日外国人の医療を行いつつ、医療通訳者の育成や国際保健プロジェクト、外国人医療の相談などに携わっている。沢田医師は、「日本国内において外国人というだけで死亡率が高い」と実例を挙げながら詳しく説明。早めに相談できる場所、通訳制度、未払い医療費の補填などを充実させるべきだと、言及していた。

参加した60代の女性は、「私たちの団体でも、外国からの若い人を受入れているので、医療問題にも関心があります」とのこと。50代男性は「私は、医療関係の出版社に勤めておりまして、外国人医療向けの出版物を企画しているので参加しました」と語っていた。その他、日本人関係者だけでなく、タイ人の看護師や、中国人なども出席。合計60人ほどが熱心に耳を傾けていた。



外国人医療を考えるフォーラム」で講演する沢田医師

■ 「エスニック」に、 「にここ」でエスニコ

このフォーラムを主催したエスニコとは、2001年5月に札幌に設立され、同年9月にNPO法人となった団体。外国人医療の充実と異文化交流を目的として、同年12月に「第1回外国人医療を考えるフォーラム」を開いた。その後、対訳問診票（5言語）の作成や、外国の料理を学ぶイベント「異文化クッキング」、医療通訳養成講座、医療現場への通訳派遣、外国人医療に関する相談・サポートなどの活動などを続けている。特に医療通訳活動に力を入れており、人材の発掘と養成や訓練、通訳の派遣、コーディネートなどを行っている。現在会員は130人（2010年3月現在）。年会費は一般3000円、団体会員は1万円。

エスニコとは、「エスニック」に、「にここ」という意味。民族が違って笑顔で交流しよう、という願いが込められているという。

エスニコ設立のきっかけについて、芦田代表は次のように説明している。

「私は札幌市内の総合病院で、外国人のための簡単な医療通訳の臨時ボランティアをしていたのですが、あるとき中国人の夫婦からある相談を受けたのです。『子どもが手術を受けなければならないので、帰国すべきか、日本で入院すべきか、医者は信用できるか、どれくらい費用がかかるか？』

と質問されたのです」

この夫婦は、社会的にも経済的にも信頼のある立場にあり、数多くの日本人の友人もいた。にもかかわらず、ちょっとした知り合いでしかない私に相談を持ちかけてきたことが意外だったという。そのことについて聞くと、「日本人の友人に、病院の選択や診察の際の通訳、治療法の検討を相談したが、ことごとく断られた。責任の重いことにかかわることが嫌なようだ」との返答だった。



芦田代表（左）、医療通訳コーディネーターの瀬賀さん（右）

そのとき、医療通訳の分野は、語学力だけでなく、法律や医療制度、医療費、中国との習慣や文化の違いなどについて熟知しなければならないと芦田代表は痛感させられた。そして同時に、ボランティアの限界を感じたという。

どうしても、社会システムとして外国人医療対策を充実させなければならない。し

かし、この問題は行政や医療機関との協力や連帯、市民の理解や働きかけがなければ解決しない。にもかかわらず、北海道には民間の外国人医療支援組織すら見当たらなかったという。

「ならば自分たちが」と、仲間数人を募り札幌市を拠点に活動を開始した。

エスニコ設立の当初は、「経費がかかるのなら、通訳なんて必要ない」と医療機関から断られるケースがほとんどだったという。「通訳はあくまでボランティアなのだから」と、交通費すら支払われない状況だった。

「最近では、少しずつ医療通訳の必要性が認識され、神奈川県や京都府のように行政が通訳の経費を負担するシステムもあります。それでも北海道の場合は、全体的に7割ぐらいの医療機関からは断られています」と芦田代表は説明する。

■ 行政の対応が遅れている北海道

同フォーラムの基調講演の後、「北海道の外国人医療」について芦田代表が説明した。

北海道の外国人登録者数は年々ゆるやかに増加しており、約2万人（2008年現在）いる。国籍別に見ると以前は韓国人が一番多かったが、現在は中国人。その数は約9000人、次いで韓国・朝鮮、フィリピン、アメリカとなっている。また、外国人の来道者は近年急増しており、2001年には23

万人だったその数が、2008年には約70万人となっている。そのほとんどがアジア出身者である。

一方、北海道の外国人医療に関しては、全国的に見て外国人の定住者が少なく行政の対応が遅れていることもあり、対応できる医療機関が少ない。にも関わらず、遠隔地が多いので数は少なくとも逼迫しているケースが多いという。

医療通訳派遣の課題として、「信頼、人材、財源」が挙げられるという。外国人の受診者と医療関係者の両方から信頼を得ること。理念と技術を持った人材の育成。そして、しっかりとした財源を確保することが、これからの課題であると強調していた。



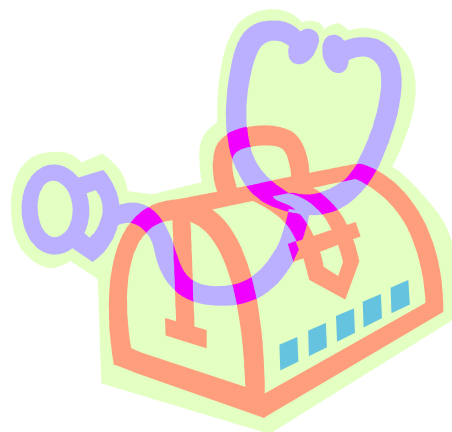
それぞれ自己紹介する医療通訳ボランティアの5人

さらに、今後のエスニコの目標として「地域のネットワークを作ることが、遠隔地の多い北海道には必要不可欠であり、同時に医療通訳の学習ができる環境を整え、人材を生み出す取り組みを重視したい」と、芦田代表は抱負を語っていた。

その後、フォーラムに出席していた医療通訳ボランティア 5 人が、それぞれ自己紹介すると共に、医療現場の印象について語った。

そのうちの英語通訳を担当する 20 代女性は、「薬剤師として働いているのですが、外国人の方にも薬を安心して飲んでもらえるようにと、この仕事に携わっています」と話していた。また、中国からの留学生は、「日本の病院は、細かいところまで行き届いており非常に親切です。注射するときに『冷たいですから』などと看護師さんから声をかけられるなど、中国では考えられません。周りの人たちにもっと日本の医療について説明したいと思っています」と述べていた。

最後に、エスニコの医療通訳コーディネーター・瀬賀泉さんは、「ボランティアのみなさんは、みんな交通費だけで来てもらっているのです」と締めくくっていた。



■ 連絡先

〒064-0826 札幌市中央区北 6 条西 26 丁目 1-2

コーポ土田 201

NPO法人エスニコ代表 芦田 科子

TEL : 011-640-2825 / FAX : 011-640-2890

Email : s25@ngos25.org

URL : <http://www.ngos25.org>